

〈 地域と連携した子ども食堂 〉



取組内容

月に1回、子どもだけでなく高齢者を含む地域の方々を対象とした子ども食堂を実施し、食事提供・学習支援・福祉教育・居場所作りを行っている

《取組開始時期》2021年頃～現在

- ◆ 食 堂 名 . . . なごみカフェしなね
- ◆ 場 所 . . . 特別養護老人ホームウエルプラザ高知
- ◆ 実 施 頻 度 . . . 月1回（毎月第3土曜日 11:00～14:00）
- ◆ 対 象 者 . . . (子ども)一宮東小学校、一宮小学校、泉野小学校
(大 人)一宮地区の高齢者を含めた住民
- ◆ メ ニ ュ ー . . . カレー・サラダ・デザート
- ◆ 料 金 . . . 子ども(中学生まで)と75歳以上の高齢者は無料
大人は200円
- ◆取組に係る人員...土佐いっく成年団、施設職員

取組目的

共生社会の趣旨に賛同した地域住民と連携協力し、子どもを含む地域の方々がお過ごせるサードプレイス・心地の良い居場所作りを目指す。そのため、子どもだけでなく、高齢者を含む地域の方々にも参加していただけるようにしている

取組に至った経緯

- 高知市一宮地区は生活困窮に対する相談件数が多い
- 一宮、薊野地区に子ども食堂の場所がない

⇒当施設にはスペースがある
そこを活用して「子ども食堂」に取り組みたい！

取組開始までの準備・流れ

- ①令和2年4月開始予定とし、まずはじめに高知市社会福祉協議会に相談を行った。
 - ・以前より「高知市社会福祉法人連絡協議会(平成30年度設立)」に参加しており、多分野の法人との連携や協議をすることが増え、視野や視点が広がったと感じている
 - ・連絡協議会への参加をきっかけに高知市社会福祉協議会との関わりが増えていたため、相談を行った
- ②準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染に伴い取組開始が延期となる。
その後も新型コロナウイルスの感染は治まらず、令和3年を迎える。
⇒コロナ禍でも子ども食堂に取り組むことはできないか？
- ③令和3年8月開設に向け、準備を再開。再度、高知市社会福祉協議会に相談を行う。

◆子ども食堂開設に向けて行った手続きや準備

*すべて高知市社会福祉協議会よりサポートあり)

- ・活動に関する申請
- ・人員、ボランティアの確保
- ・食材の確保
- ・小学校や近隣のお店へのチラシ配布
- ・他機関への情報提供
- ・他の子ども食堂への見学

◆人員、ボランティアの確保について

◎ボランティア「土佐いっく成年団」

元々、土佐香美福祉会が運営する施設での定例会の実施や介護相談員、施設にボランティアとして来てもらったりと関わりがあった。子ども食堂の運営の協力をしてもらえないかお願いをしたところ、引き受けていただくこととなった。(4~6名参加してもらっている)

◎その他の人員

法人から3~7名ほど参加

◆食材の確保について

- こうち食支援ネットや地域のスーパー等から食品として問題はないが、販売できないもの（冷凍焼けしている商品等）の提供いただけることに
- 農園で育てられた作物の寄付をいただく
- 現在、お米は地域住民の方から提供いただいている

◆コロナ禍でも子ども食堂を運営するための感染対策

* コロナ陽性となった参加者・運営スタッフはいない

- 検温
- 手袋着用
- 参加者、運営スタッフのリスト管理
- 机にはアクリル板を設置
- 手洗い、消毒
- テイクアウト
- マスク着用

取組に係る費用

運営費 8,000 円（県補助金）

（令和6年度以降は8,500円（県補助金））

開催実績（令和3年8月～令和5年12月現在）

（令和3年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
近隣の小学生					7	6	21	11	35	28	30	14
その他					16	11	28	42	36	27	38	24
ボランティア等					7	0	7	9	7	4	0	5
施設職員					4	3	6	5	7	5	6	5
合計					34	20	62	67	85	64	74	48

（令和4年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
近隣の小学生	28	4	34	15	2	19	29	16	20	36	21	41
その他	15	26	19	17	10	10	26	25	22	22	30	26
ボランティア等	4	0	6	8	0	7	7	5	0	4	4	6
施設職員	5	6	5	9	4	5	6	4	5	5	5	5
合計	52	36	64	49	16	41	68	50	47	67	60	78

（令和5年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
近隣の小学生	12	45	40	24	16	26	43	15	34			
その他	19	33	46	26	31	28	46	45	41			
ボランティア等	5	6	7	6	6	8	6	7	7			
施設職員	6	6	7	5	5	6	5	6	6			
合計	42	90	100	61	58	68	100	73	88			

施設職員の意識や教育について

当初は事務所職員中心に運営をしていたが、徐々に施設の介護現場で働いている主任やユニットリーダーも参画することで、社会福祉法人としての使命や目的、子ども食堂の役割や地域との関わりについて学び、福祉専門職としての視野を広げていくことで、知識や実践力の向上、職員の成長や幸福、所属組織の持続的成長に繋がる。

⇒ 地域共生社会への実現



今後の展開について

- 施設利用者と子どもの触れ合いの機会を設けたり、ノーリフティングケアの体験を行うことで福祉への興味や関心を持ってもらえると考え

⇒子ども食堂を通して、未来の福祉人材を育てることが出来る。

- 地域に根ざした子ども食堂を目指してスクールソーシャルワーカーとの連携や生活困窮世帯への支援、自宅へ弁当配布等の出張型の子ども食堂（高齢者の方で外出が不可能な方等）、送迎サービスも検討している



法人コメント



土佐香美福祉会は、香美市土佐山田町・高知市一宮・安芸郡芸西村の3事業拠点において、暮らしに欠かすことのできない人権や男女共同参画の研修啓発会活動、多用途スペースを利用する子ども食堂運営活動による複数法人連携の拠点づくり、そして遍路巡礼の道に着目した通所介護高齢者とお遍路さんの交流の場(お接待所)提供等の活動を地域住民の方々と行ってきました。それぞれの活動の充実とともに、地域における開かれた法人として住民の方々から一層の理解が得られるように、地域が抱える様々な課題を把握し可能な限りの取組を行いたいと考えます。

(社会福祉法人土佐香美福祉会 楠目理事長)